

第40回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:令和2年1月22日(水曜日)10:00~11:30
- 場 所:仙台市役所本庁舎2F 第1委員会室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、
阿部 由起子 委員、大庭 克己 委員、日下 晋 委員、佐々木 敦 委員、
菅井 一男 委員、多田 千佳 委員、西大立目 祥子 委員、深松 努 委員、
牧野 弘明 委員、山中 匠 委員
- 欠席委員:佐川 栞 委員、菅原 陽介 委員
- 事務局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課

■ 内 容:

<次 第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
 - 1) 広瀬川創生プランの中間見直しについて
 - 2) 令和2年度 広瀬川創生プラン取組事業の更新について
 - 3) 令和2年度 重点事業の設定について
4. 報 告
令和元年度 重点事業の評価について
5. その他
6. 閉 会

■ 要 旨:

- 広瀬川創生プランの中間見直しの骨子案について、事務局案が了承された。
今後は本日いただいた意見を踏まえ中間案の検討を進めていく。
- 令和2年度広瀬川創生プラン取組事業の更新について、事務局案が了承された。
- 令和2年度 重点事業の設定について、事務局案が了承された。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（吉田課長）

只今より「第40広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める河川課長の吉田である。

佐川委員、菅原委員においては、所用により欠席とのご連絡をいただいている。

2. 挨拶

○司会（吉田課長）

はじめに、小祝会長からご挨拶をお願いしたい。

○小祝会長

広瀬川創生プラン策定推進協議会は今回で節目となる40回目であるが、広瀬川に関する課題はまだ多くあると感じている。今年も広瀬川の創生に向けて皆様としっかり協議しながら取組みを進めていきたい。

○司会（吉田課長）

続いて、建設局長の小高より挨拶申し上げる。

○小高建設局長

本日は、お忙しい中、皆様お集まりいただき感謝申し上げます。また日頃より広瀬川の保全及び活用に、ご協力をいただき重ねて感謝申し上げます。昨年は台風19号により、全国的に河川堤防の決壊や溢水による甚大な被害が発生したが、広瀬川については大きな被害には至らなかったところである。ただし、サケの飼育や放流会等の広瀬川創生プランの一部の事業は中止になってしまった。一方、広瀬川に関わる話題として、令和5年度に全国都市緑化フェアを仙台市に誘致したい表明をさせていただいた。その際に拠点となる会場については、現在整備を進めている青葉山公園の追廻地区、西公園の市民プール跡地、そしてその間を流れる広瀬川を考えている。もし誘致が実現すれば市内外の多くの来場者に広瀬川の魅力を発信できる、とても良い機会になると期待している。その際は、イベントの企画等について皆様のアイデアを頂戴したい。

本日の協議会は議事が3件、報告事項が1件となっている。議事の1つである広瀬川創生プランの中間見直しについては、前回の協議会で決定した方向性に沿って具体の案を提案させていただく。皆様の忌憚のない意見を頂戴したい。

3. 議事

○司会（吉田課長）

本日は全14名の委員のうち、12名の方に出席いただいている。過半数に達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で深松委員にお願いしたいが、よろしいか。

=深松委員了承=

それでは次第に沿って、進めさせていただく。「広瀬川創生プランの中間見直し」について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料1に沿って説明。

○小祝会長

内容について整理されてきたのではないかと感じている。新たな広瀬川の創生に向け、取組みの持続可能性を意識した骨子案である。事務局からの説明にもあったとおり、参考資料2については詳細な内容であるため、こちらについては、後ほど個別に事務局へ意見を伝えていただくということで、今回は大枠となる骨子についてご意見を伺いたい。

まずは、企業の立場で市民活動の支援に関わっている、東北電力の阿部委員より何かコメントをいただけないか。

○阿部委員

弊社で取り組んでいる地域づくり支援制度についてご紹介する。弊社では「地域づくり支援制度まちづくり元気塾」に取り組んでいる。これは地域の活力の再生・自立に向けて、地域の方々が直面する課題解決に取り組んでいる団体をサポートする制度である。地域のニーズに即したまちづくりの専門家をまちづくりパートナーとして団体へ派遣する制度である。お金の支援ではなく、パートナーとしての支援であり、1年をかけて自分たちの活動をどのように発展させていくか年間で3回程度の塾、講演会、ワークショップなどを開催しながら今後の活動の道筋を立てていく内容となっている。募集は年1回で、東北6県と新潟の計7県の中から選考会を経て、年間約4団体程度を支援している。例えば農家民宿や地域農家のお母さま方の手作りジャムの販売等、その団体の資金源となるような活動の支援をサポートしている。支援をしている4団体同士で集まり会議を開催したり、1年後にその後の活動展開がどのようになっているか報告会を実施したりしている。現在今年度の募集团体の中から選定を行っている時期であり、2月に来年1年をかけて支援していく団体を決める予定である。来年度については、8月～10月くらいに応募を受付ける予定である。この取り組みは2006年から開始しており、弊社のホームページやプレスリリースにてPRしているが、まだまだ認知度が低い状況である。直接パンフレットを各自治体や商工会議所、NPOのための中間支援団体等にご案内しているが、今回この取り組みが広

瀬川創生プランに活かさないかご紹介した。

また資金面の援助として弊社の「東北・新潟の活性化応援プログラム」についてご紹介したい。こちらも地域の課題解決に取り組んでいる団体が対象となるが、具体的には地域産業の振興、地域コミュニティの再生・活性化、交流人口の拡大等の地域課題の解決に資する活動を長年行っている団体が対象である。応募いただいた東北6県および新潟県の団体から各県1団体、計7団体を選定し6団体に助成金として30万円、1団体に特別助成金100万円を支援している。長年活動している中でさらに資金があればどのような活動が可能か報告いただき申請いただいている。広瀬川に関する活動を行っている団体からも、来年度の募集に合わせて応募いただければ幸いである。

○小祝会長

広瀬川創生プラン中間見直しの参考になる大変興味深い内容であると感じた。中でも、採用された団体同士が協議をして交流する機会があるというのは、本日、事務局から提案された「事業者実施者が顔を合わせる場の提供」の参考になると思う。

阿部委員の説明も踏まえて、ご意見又はご質問はあるか。

○深松委員

広瀬川市民会議が機能しなくなったのは、高齢化が原因である。ボランティアの限界もあり、今回の広瀬川創生プランの見直しにおいて、仙台市がサポートしてくれるとのこと良い方向に行くと思っている。

一つの産業がその産業のみでは維持出来なくなっている事例が多く生じている。現在、建設業協会の会長を務めているが、今回の台風19号の前に農協の本部長から連絡があり、稲刈りで収穫したお米をライスセンターへ運ぶ担い手が居ないため手伝ってほしいと相談を受けた。昔、農家の方は稲刈りが終了したあとに、出稼ぎとして建設業界で働いていたが、今は高齢化により誰も居なくなってしまった。そして、いよいよ農業自体も自分たちで賄えなくなっている状況である。広瀬川に関わる団体もメンバーが長年同じため高齢化しており、若い人達に入ってもらわないと活性化しない。周知についても仙台市で積極的に行っていただけると有難い。今回の中間見直しについては、仙台市が積極的にサポートいただけるとのことで、良い方向に向かうと思う。

○小祝会長

貴重なご意見感謝する。先ほど、中間見直しにおける広瀬川の持続可能性についてお話したが、市民団体の持続可能性が重要だと改めて認識した。

他にご意見又はご質問はあるか。

○日下委員

資料1 P.4に課題解決の方向性として4項目記載あるが、①～③はそれぞれキーワードで「情報共有」・「周知」・「支援」となっており分かりやすい。④についてはP.8とP.10に具体的な内容が記載されているが、「新規取組事業の受入体制の整備」だけでは何を具体的にを行うのかイメージが湧いて来ない。表現が分かり易くなるように検討いただきたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

広瀬川の魅力を創出していくために、広瀬川に関連する様々な活動団体を増やしていきたいというのが趣旨である。新規取組事業の受入態勢の整備に関するキーワードについては、広瀬川創生プランの中間見直しを行っていく中で、市民に分かり易くというのも着眼点にしながら考えていきたい。

○小祝会長

次回検討を予定している広瀬川創生プラン中間見直しの議論でも出てくると思うので、その時にまたご意見を賜りたい。他にご意見あるか。

○多田委員

周知に関して、冊子を作製し配布することを検討されているが、今の若い人は本を読まずYouTube等のSNSだけで情報を入手したり、交換したりしているようなので、情報の発信については新しいやり方に取り組んだ方が良いと感じている。全部一遍に取り組むことは難しいと思うが、そういった視野も必要と感じた。

○日下委員

前回の資料では、広報について「事業や活動についてホームページや新聞で広報しているが周知不足を感じている」という記載がある。ホームページは使用されていると思うが、アクセス数や、他の仙台市の類似ホームページとの比較など現状分析も必要だと思う。インターネットの活用については、今回の資料のどこにも出てきてないが、そこは必ず活用する必要があると思うので合わせて検討いただきたい。

○小祝会長

貴重なご意見、感謝する。アクセス数等の資料については分かる範囲で構わないので、数値的なデータを示せるのであれば、次回参考資料としてお願いしたい。

他にご意見なければ、事務局提案の骨子案でよろしいか。

＝一同了承＝

○小祝会長

それでは、本日いただいたご意見・ご質問を踏まえ事務局でまとめていただき、検討を進めていただきたい。

次に、令和2年度 広瀬川創生プラン取組事業の更新について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料2、3に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明に対し、ご意見・ご質問はあるか。

○多田委員

今回、新規事業として取り上げている太白区中央市民センター及び国立研究開発法人土木研究所は、どのようにして広瀬川創生プランの取組事業に掲載できることを知ったのか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

まず太白区中央市民センターについては、取組事業実施状況に係る照会を本市の各担当部局に行ったところ、こうした事業があることを情報提供いただいたことがきっかけである。その後、こちらから直接、太白区中央市民センターに問合わせて取組事業として掲載した。また、国立研究開発法人土木研究所については、本市へ多自然川づくりに関する事業の提案をいただいたことがきっかけで、取組事業への掲載に至ったものである。

○小祝会長

情報発信のあり方に関してのご質問だと思うが、広瀬川創生プランの中間見直しのなかで、今後、事務局よりご提案いただきたい。

他にご意見・ご質問はあるか。

○西大立目委員

仙台ガラスプロジェクトについては、事務局から相手方に尋ねなければ、中止となることが分からなかったのか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

そうである。

○西大立目委員

非常に興味深い事業と感じており、販路も多岐にわたっていて色々な場所で拝見したことがある。冒頭にご説明のあった東北電力様の活動資金援助の情報が伝わると継続可能だったのではないか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

今後は、東北電力様の支援制度のような情報があれば、仙台市から積極的に各活動団体へ情報を周知し、活動が活発となるようにサポートしていきたい。

○小祝会長

他にご意見なければ、事務局提案の内容でよろしいか。

=一同了承=

○小祝会長

次に、令和2年度 重点事業の設定について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料4に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明に対し、ご意見・ご質問はあるか。
なければ、事務局提案の内容でよろしいか。

=一同了承=

○小祝会長

次に令和元年度 重点事業の評価について、事務局より報告をお願いしたい。

4. 報告

○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料5 に沿って説明。

○小祝会長

「広瀬川1万人プロジェクト」および「アイラブ広瀬川プロジェクトの実施」として、まち歩き、サケプロジェクト、広瀬川写真ワークショップについて、報告いただいた。

広瀬川1万人プロジェクトに長らく参画されている深松委員より、ご感想などを伺いたい。

○深松委員

広瀬川1万人プロジェクトの一斉清掃では、澱会場を担当している。全会場の中で比較すると、参加人数は二番目に多い一方で、ゴミの数はとても少なく、ゴミを探す状態となっている。ただし参加者は、建設関係の会社だけではなく、銀行・証券関係の会社の方も参加いただくようになり、他業種も含めた広がりが生まれてきている。

現在、広瀬川1万人プロジェクト実行委員会では、NPO法人化の検討を行っているが、清掃活動についてはこのまま継続していき、会場数を増やすことも考えていきたい。

○小祝会長

「アイラブ広瀬川プロジェクトの実施」の中の1つである、まち歩きに関して、西大立目委員より感想などを伺いたい。

○西大立目委員

まち歩きについては長年実施してきているが、ここ数年はテレビ番組の影響を感じている。これまでだと、仕事をリタイヤされた方が、「仙台の事を知らないから」という理由で参加する場合が多かったが、最近は複数のまち歩きに参加されており、知識も多く持っていらっしゃる方が増えてきた。そのため、

最近は私だけが話すのではなく、そういう方にも思い出話をしていただく等、参加者の方も主体となるような進め方をしている。将来は、このような方もガイドになっていただけるといいのではないかと考えている。そして、週末は広瀬川流域のどこかで、まち歩きが行われているような状態になれば、観光で仙台に来た方も気軽に参加できる仕組みが出来るかもしれないと感じた。まち歩きも、ただ実施するのではなく、次につながる何かを考えながら取り組む時期ではないかと思っている。

○小祝会長

市民ガイドの養成も重要な課題であると思う、貴重なご意見をいただいた。
他にご意見はあるか。

○日下委員

サケプロジェクトが実施できなかったため参考資料3に記載がないのだと思うが、地図上にはサケプロジェクトの番号と思われる「④」だけが残っている。

○小祝会長

参考資料3については訂正をお願いしたい。
それでは、令和元年度の重点事業の評価については以上となるが、事務局提案のとおりでよろしいか。

=一同了承=

○小祝会長

本日の議事及び報告は以上となるが、委員の方から意見や情報提供等あるか。

○多田委員

まち歩きの取り組みが今回「リビング仙台」に掲載された件についてである。フリーペーパーに1回だけ特集記事として掲載するのではなく、例えば広瀬川に関するコーナーを設け、季節ごとの様々な取り組みを掲載できれば、幅広く多くの人に効果的に周知できるのではないかと考えた。さらに、フリーペーパーをホテル等に置いていただくことで、観光で仙台を訪れた方へもアピールできると感じた。

○小祝会長

広報活動が重要だと思う。事務局にて広瀬川創生プラン中間見直しで検討いただきたい。

○小祝会長

他にご意見あるか。

○深松委員

都市緑化フェアに関しての意見である。山形県で日本一の芋煮イベントを実施しているが、追廻地区の会場でも同じことができると思う。地下鉄の駅が近いなど好条件で人も集まりやすい。都市緑化フ

エアの期間以外も利用できる芋煮の施設設置を検討していただけるとありがたい。

○小祝会長

一つのご意見として事務局で受けとめていただきたい。他にご意見あるか。

○西大立目委員

写真撮影ワークショップの取り組みについて、とても興味深く感じた。色々な角度から広瀬川に関わる入口を地道に広げていくことが大切だと思う。他にも、例えば広瀬川のスケッチ会や写真コンテスト、広瀬川を詠む俳句の句会等も面白いと思う。こういった取り組みは、事務局だけが考えるのではなく、市民センターや区役所とも連携して、広瀬川に親しんだり学んだりできる機会を増やすことが重要である。

○小祝会長

西大立目委員に紹介いただいたようなアイデアは、本協議会においても活発に挙げていただき、広瀬川に関する取り組みに反映していきたい。可能であれば、このような協議会の意見を市民の方々にも知っていただくため、多くの人が傍聴できるよう事務局でも考えていただきたい。

その他、特になければ、内容については事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

＝一同了承＝

5. 閉会

○司会（吉田課長）

活発な議論をいただき、感謝申し上げます。

今期、皆様に協議会の委員として委嘱している任期は、今年度3月までとなっている。委員の皆様方におかれましては、この2年間、貴重なご意見・ご指導をいただき感謝申し上げます。

特に菅井委員におかれましては、委嘱の目安となる年齢を超えて、本日まで委員を務めていただいたところであるが、今期をもって退任されることになる。「広瀬川であそぼう」の実行委員長として、現場で活発に活動いただき、本協議会においても貴重なご意見・ご助言を賜り感謝申し上げます。

それでは最後に、ご退任される菅井委員からひと言ご挨拶をいただきたい。

○菅井委員

今回の協議会を以って退任させていただくこととなった。約8年間委員を務めたが、多くの委員の方にお会い出来て、貴重な意見交換をさせていただいた。感謝申し上げます。私自身は、約10年前に広瀬川での貸しボートを復活させようとしてNPO法人を立ち上げたのが、広瀬川に関わる最初であった。宮沢橋近辺で活動をしていたが、まだまだ広瀬川については知らないことが多いので、まち歩きや写真撮影ワークショップ等も機会があったら参加してみたい。本協議会においては、事業を実施する上で人や資金の必要性について、意見を述べさせていただいた。特に資金については、資金がないと幾ら議論をしても、机上の空論で終わってしまうことが多い。これから広瀬川創生プランを推進して

いく上でも、知恵を出して、発展させていただきたい。

今後も顔を見かけた際にはお声をかけていただきたい。委員のみなさま、事務局各位においては、誠に感謝申し上げます。

○司会（吉田課長）

菅井委員には、あらためて感謝申し上げます。

以上をもって、第40回広瀬川創生プラン策定推進協議会の一切を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会 長 _____ (印)

委 員 _____ (印)